

## 間違いを恐れない覚悟

夫 明美

はじめに、3月11日に発生した東日本大震災においてお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げます。また、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

3月は多くの卒業生を送り出す季節です。3年前または昨年新入生として本学に入学してきた四年制大学・短大の学生が、それぞれの学びを終え、巣立っていきました。厳しい不況が続く中、根気強い就職活動を経て社会人となる学生、さらなる学びを継続するために短大から四年制大学へ編入する学生、留学を志して準備する学生とそれぞれに進路は異なりますが、みんな晴れやかな顔をしていました。

担当授業を通して関わりをもった学生の晴れ舞台を見てみると、これまでの思い出がよみがえってきます。英語の発音向上に悩み、授業後も熱心に復習していた姿、研究室で一緒に練習した姿、資料収集や掲示物の作成など教育実習の準備に必死になって取り組んでいた姿、編入試験に向けて図書館で一生懸命自習する姿。みな一生懸命でした。私にとっても、適度な距離を保って指導することに工夫が必要になりました。失敗を恐れて「転ばぬ先の杖」を教師側が与えてしまっただけでは、彼女らの真の学びにはなりません。かといって、放任を決め込んでしまっただけでは、見放すことと同じ危険性があります。一緒に取り組み、また同時に見守りながら指導する、という課題に丁寧に取り組むという意識を改めて持つとともに、学生の皆さんには失敗を恐れない覚悟を忘れずにいてほしいと思います。「間違いを恐れない」心構えについて、春休みに手にした羽生もと子さんの著作集「思想しつつ生活しつつ」の中から引用したいと思います。

人として間違いのない人は一人もなく、そうしてまた私どもは何でも事を実行してみて、その中の成功と失敗—すなわち間違いの中から、多くの大切な経験と知識を発見するものですから、出来るだけ考えて、右にするか、左にするかを決定し、決定した上は、右と左を全くはき違えていても構わないという、しっかりした心をもって、決定したところを行うようにしたいと思います。

間違いのないようにないようという考えの中で事をするのと、考えた上ではき違えるなら履き違えても構わないという、潔い勇気をもって事をする人とは、その行為の上に著しい違いのあるものです。

一生懸命、かつ丁寧に思考と準備を行ったうえで潔く実行へ移す勇気を与えてくれる文でもあり、丁寧に基礎工事を経ずにやみくもに実行へ移すことをそれとなく諫めてくれる文でもあると思います。